島原城築城400年記念事業協賛事業 第217回市民文化講座



戦国時代に宣教師の奴隷として日本にやってきた「弥助」は、織田信長の家臣として活躍します。初代松平島原藩主・松平忠房公の祖父が記した『家忠日記』(国重要文化財)、肥前島原松平文庫所蔵の『信長記』にも、登場する「弥助」。前国士舘大学教授が最新の研究成果を発表します。

- ◆日 時 3月 | 3日 (土) 午前 | 0時
- ◆場 所 森岳公民館大ホール
- ◆講 師 口之津歴史民俗資料館 館長 松本 昇 氏

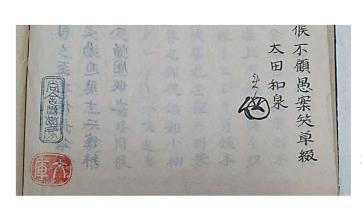
(前国士舘大学教授)

- ◆参加費 無 料
- ◆定 員 50人(先着順)
- ◆申 込 島原市教育委員会社会教育課の

電話68-5473、FAX68-5480、窓口へ

モ党义後九九 古几 男 六三 多今由健 七月 拜不俟ャ トキ 1) 見 及 伴 相 仕系天 見 三連器 候 也團百量 物 之國 2 3 身 月 九 物 御 力 カ 礼毛 月 摄 申 强 口 坊 北 E 主 弥 佚 常 夏 越 苛 誠 之 前 有御 ト 威 勝

月七 信殷 長何 御モ 出御 上 京 本 浴 能二 寺条 二 奶 至 覚 元 被 御 寄 移 御 侑 座



【写真】『信長記』 (肥前島原松平文庫所蔵)

天正9年(1581)2月23日の記事に「きりしたん国より黒坊主参り候」の記載がある。『信長記』には、松平忠房公の蔵書印である「尚舎源忠房」「文庫」が押されている。